

育兒の經驗

(承前)

光藤泰次郎

人に接する事、子供は元來、餘程我が儘なる、餘程勝手なる傾向を持つて居る。他の言葉を以て之を言ひあらはしたならば、餘程利己的の傾向を持つて居るといつて宜しい。若しも人類が原人の野蠻であつた時代から、今日の文明に赴いたまでの變化を、人一代の間にするといふ説が眞であつたならば、子供はさしづめ、野蠻時代の、利己的の、争闘好であつたのに相當するのでありましよう。それ故に接する所の人の如何によつては、この利己的の傾向は益々助長しやうし、争闘好の傾向は益々盛になるであらう。或は其の反對に此の傾向は漸次其の影をひそめて、從順とか、協同とか、親和とか、種々の善良なる諸徳の萌芽が益々増大するに至るであらう。それ故に子供の接する所に人に就ては、子供を養育する所の責任を負うて居る両親は、常に注意を怠つてはならぬと思ひます。1 両親に接すること。子供が両親から感化を受け

るもの多きのは、今更いふまでもない。親が持つて居る愛情親が抱いて居る思想、親の持つて居る趣味、親がする所の行爲舉動、等は子供に接する機會が多いだけ、それだけ子供に感化を與へる。それであるから私は出来るだけ、機會を見つけて、子供に接する時機を多くしやうと勉めて居る。子供の教育の一方面から見ますと、父乃至母が業務多端のために、子供に接する機會が少くあるは、甚だ子供の不幸であると斷言して差支なからうと思ひます。殊に男の子になりますと、どうしても父親が男性的で剛強なる方面の感化を與へる必要があるかと考へます。其の證據には、特別の例はありますが、男親のかけた所の男の子は、どうも溫和で、靜で、餘程女性的に傾いて居るかと思はれます。そしてやゝともすると氣がよはく涙もろく、それで我が儘な點があるやうです。これは或は慈愛が餘りあつて、謂はゆる重石がさかぬといふ弊があるのではないかと考へられます。されば子供の教育の方から觀察いたしますと、両親が具足して、兩々相携へて感化を與へて行くといふ

とが、最も幸福であるとは今更申すまでもないを
と考へます。自身冷水摩擦をして、其の例を示し、
又子供に冷水摩擦をさせるのも皆自分でやるやう
につとめ、夕食後の運動や遊戯や、自身仲間にな
つてやるといふのは、皆此の男性的感化を與へ
んが爲でありませう。

2 兄弟相互の感化、子供が父親に接し、母親に接
し、祖父に接し、祖母に接するといふと、接する
所の人が、皆自分より年も多く、力もつよく、智
慧も多く、何もかもすべてすぐれて居る所から、
依頼の心がつよく、あまへる心があつて、なかく
我が儘なものであります。然るに弟なり妹なりが
出来て、自分が年上になり、兄となり姉となると
いふと、今までは餘程ちがつた心意氣になつて、
幼い者弱い者をいたはるといふ優しい殊勝な心組
になりませう。是は子供に取つて餘程重大なる境遇
の變化というて、差支なからうと思ひます。此の
境遇の變化こそは、子供の教養上、種々利用すべ
き點であらうと思ひます。先づ第一に兄弟は弟妹
を愛し、弟妹は兄弟を敬ふ事を知らせる事が出来

る。學校に於て如何に巧妙に授業をして、兄弟
のない子供に兄弟仲善くするを本當に知らせる
とは出来まい。兄や姉や弟や妹を可愛がるべきも
のだといつても、弟妹を持たぬ子供には、兄弟間
の愛情が了解されやう筈がない。それ故に兄弟の
ない一人ばつちの子供は、此の點に於ては不幸で
あるといはねばならぬ。

然るに弟を姉を持つ所の子供は、自然的に
幼い弟を愛し、稚い妹を愛する情が湧き出るも
ので、若しも両親が少し氣をつけてさへ居れば、
兄弟互に相愛し、互に仲よくするとは、益々養
成し得るものである。試みに小供に向つてあなた
の兄さんを貰ひませうとか、あなたの妹を貰ひ
ませうとか、戯れて御覽なさい。彼等はいまだ
戯といふとを知らないものだから、其の言葉を
眞實と思ひ、眞剣になつて、厭ひ、悲しみ、はて
は泣くに至るでありませう。嘗て或家に於て、
乳の都合より、幼弟を他家に預けたるに、其の兄
姉などは、あまりに可愛相だとして、毎日泣いて兩
親にせがみ、遂に先方に行つて取りかへして來た

といふ話を聞きまししたが、兄弟の至情皆かうであらうと思はれます。宅にひきましては、兄を敬はせるは無論、兄弟などすべて年上のもは、年下のものをいたはるといふ風にしむけて居ります。しかし是は好き方面の觀察であるが、兄弟同志でも必ずしも好き方面ばかりではありませぬ。若し年齢なり體力なり智力なり、其の差が大なれば大なる程幼者をいたはり幼者を愛し、其の差の少なるに従ひて互に競走する傾があるやうに思はれます。第二弟妹として兄弟を模範とし之に模倣せしめ、兄弟には責任を持たしむるを。子供は模倣性が強くあるを、今更申すまでもありませんが、しかし大人のするをまねるよりは、成るべく年の同じ頃なのをまねる方が面白くもあり且は自然であるらしく思はれます。言葉にしましては兄弟なりが居りますれば、自然に覺えます。唱歌などにしてしましても、兄や姉が歌つて居れば、弟妹はいつの間にか覺えてしまひます。これは自然に兄弟が弟妹に及ぼす感化の方面であります。朝起き出した時の挨拶にしても、夜やすむ時の挨拶に

しても、御飯をたべる時の行儀にしても、他所に行く時歸る時の挨拶作法にしても、弟妹に對しては、兄の如くせよ、姉の如くせよといひ、兄や姉に對しては、妹や弟が皆姉さんや兄さんの眞似をするから、兄さんや姉さんは御手本にならねばならぬといふやうに教へて行きます。さうすると兄や姉は幾分責任を感ずるかして、益よくなつて行きますし、弟妹は見やう見まねに、力を勞せずして習得するといふ益があります。第三朋友との交際、両親に對する關係は全然尊長に對する關係であるし、兄弟に對しては幾分之に類似して居る、弟妹に對しては、幾分長者となつたやうなものであるが、何れにしても子供の我が儘勝手は未だ十分に脱却するに至らぬ。婢僕に對しては、日本に於ては大抵主従關係であるから、なほ一層我が儘を逞うするといふ傾向があるやうだ。か友達となると、其の關係が一切平等で一切對等である。否平等といふとは出來ぬ。體力が平等でない、智力も平等でない、腕力も平等でない、辯力も平等でない。しかし其の關係が對等である。それ故に見

童をして社會生活に馴れしむる第一歩として
 友達とは是非遊ばせたいと思ふ。そして此の子供の
 我が儘な點を矯正し、共に楽しみ共に作業するに
 馴れしめたい。しかしどうも近所の子供とはあ
 まり遊ばせたくないやうな氣持がする。それは遊
 びに出すと野卑な言葉を感じて来る。野卑な事
 するを覺えて来る。無論よい事も覺え来るが、
 其の利害如何は餘程考へものであるからだ。それ
 に子供の社會は、自由競争の社會だ。腕力の強い
 者が勢力を振ふ社會だ。勢力ある者は随分無理を
 押し通す社會だ。随分弱い者のいちめをやる社會だ。
 だがなほ一步を進めて考へて見ると、室の植木は
 花は早く咲くか知れないが、しかしとても棟梁の
 材となるには出来ない。家庭で十分注意をして、
 教育の基本を強固にしておいたら、害を受ける
 は少く、益を受けるのであらうと、幾分の制限を
 つけて遊びに出すに居ります。實は世間の
 家庭で、子供の教育に注意して居らるゝ所の子弟
 が、交際其の他あまりに制限せらるゝ所から、温
 和ではある、從順ではある、人ずればして居らぬ。

しかし積極的に善事をなさうといふ氣力に乏しい
 又朋友等が何か善からぬ事を企てた場合に、敢然
 として惡に抵抗する意思力に乏しい、心ならずも
 同意するといふ腑甲斐なき有様のあるのを、折に
 目撃します所から、幾分意志力量修練等の足しに
 もならうかと、前申す通り或る制限を附して遊び
 に出します。されどか友達の交際の利益のみを受
 けて、其の害を受けないのは、私は幼稚園である
 と思ひます。近所のお友達との交際は、近所に住
 る人によつて、善悪様々であつて、共に一様に
 はいひ得ませんが、また一様には取り扱はれませ
 んが、幼稚園のお友達は、保姆諸先生の監督の下
 に、遊戯交際しまするとして、氣を許して居る
 が出来ず、私は此の社會生活に入る第一歩と
 して、同年輩のお友達が、保姆諸先生監督の下に、
 對等に交際する、此の幼稚園教育を必要と信じま
 す、幼稚園教育の必要は無論他の點からも立論せ
 らるゝに違ひないのであるが、私は特に此の點か
 らもいふことが出来るといふをこゝに明言してお
 きます。幼稚園に入りましてから、今までと子供

の樣子のちがつて来た點は、我がまゝが少くなつて来た事でありませう。これまでは幼弟幼妹と遊び戯れるにしましても、やゝもすれば我が儘勝手をやる癖がありますし、或は偏狹に自分の者を他に貸し與へ、或は分ち與へるに吝であつたものが、だんだん、我が儘勝手がへつて來ましたし、自分の持ち物であつた玩具を貸し與へたり、菓子其の他のものを幼弟妹に分ち與へる等應揚になつて來ました。子供の性質にもより、家庭の仕つけの如何によつて、利益をうける方面も一樣ではなからうが、私の子供は此の點に於て大に利益を受けました。次には或るか友達の特別の感化を受けました。それは幼稚園のか友達に哲ちゃんといふ子が居ります。此の子は天才であるか修練の結果であるか、兎に角非常に繪がうまい。殊に動物の繪が上手だ。毎日哲ちゃんのかいた動物の繪を買つて來ては、紙を下さいといふ。紙を與へると鉛筆を以て毎日まねてはかき、寫してはかきして居たが、終には之に満足しないで、動物の繪の本を買つて下さいといふ。買つて與へると、それを下にかい

て寫してかくやら、眞似てかくやら、終には馬なり象なり麒麟なりお手本を見ないで、どうやらかうやら格好がとれて、それとわかる様に進歩して參りました。是等は一般に受けた感化と、特別に受けた感化と、各其の一例に過ぎないが、此の外色々の感化をうけたとは明瞭であります。なほ對人關係に統ては婢僕との關係、祖父母との關係、出入する人との關係等様々ありますけれども、あまりくだくだしくなりますからやめておきます。

しかし此の對人關係は至極大切な事であつて、之によりて其の人の人格は定まる、其の人の人生觀は定まるかとも思ひますから、これから先も十分注意に注意を加へて行く考であります(まだある)

都會は子供を育つるに都合よきか

雨 峯 生

1都會は子供を育つるに都合よきか、それとも都合わるきかは、都會に住んでゐる人に取つて、非